

IMF-JC 金属

発行所
全日本金属産業労働組合協議会
住 所 東京都中央区日本橋 2-15-10
電 話 03-3274-2461
編 集 IMF-JC 組織総務局
発行人 團野 久茂
定 価 1 年分 60 円

IMF-JC ホームページ <http://www.imf-jc.or.jp>

金属労協第 45 回定期大会開催

改革の実践による JC 機能強化めざす



2007-08 年度運動方針を決定

- 特別報告「総合プロジェクト会議答申」を確認 -

加藤議長・團野事務局長ら新役員を選出



大会議長の山本謙二 (自動車総連、左)、西野ゆかり (基幹労連、右) 両代議員

運動方針を満場一致の拍手で承認する代議員



金属労協は、9月5日午前10時から、東京・日暮里のホテルラングウッドで、約300名の代議員・役員らが出席の下、第45回定期大会を開いた。

冒頭加藤議長が挨拶に立ち、金属部門の強化、2007年闘争の課題、COCへの取組みなどについて考えを述べた。

続いて来賓挨拶に移り、国内からは連合高木会長が挨拶、海外からは16カ国19組織25名の海外来賓が出席し、代表してIMF本部のマルチェロ・マレンタッキ書記長が連帯の挨拶を述べた。(2面参照)

大会では、報告事項として、一般経過報告、闘争経過報告、2006年度会計決算報告・会計監査報告を承認した後、特別報告として、金属労協の機能強化をめざす改革案をまとめた総合プロジェクト会議答申を確認した。

審議事項として、「2007-08年度運動方針」を團野事務局長から提案、各産別からの意見要望を受けた上、原案通り決定した。2007年度会計予算を承認したほか、役員改選を行い、加藤議長・團野事務局長を中心とする2007-08年度役員を決定した。また、顧問および政治顧問の委嘱も行った。(4面参照)

大会に出席した16カ国19組織25名の海外来賓



大会の詳細につきましては、IMF-JCのホームページをご覧ください



議長挨拶
加藤 裕治 金属労協議長

金属部門の強化に積極的役割果たす

本日の定期大会で、特別報告として「総合プロジェクト会議・答申」を提出させていただくが、今回の大会は、金属労協の今後の組織運営、活動の方向性について皆さんにご確認をいただき、新しいスタートを切る大会だと捉えています。以下、4点について考えを述べさせていただきます。

1点目は、選挙支援について、5年間の小泉政権のもとで傷んだ日本の経済社会システムを本当の意味で改革し直していかなければなりません。その天王山が来年の参議院選挙だと思えます。金属労協は組織内で池口修次、若林秀樹、轟木利治の3人の候補を擁立していきます。この3人の候補の必勝はもちろんのことではありますが、この参議院選挙をきっかけとして政権交代を引き寄せていくチャンスが十分にあることをお互いにこの場で確認し、必勝を誓い合いたいと思えます。

2点目は部門強化について、連合はもっと部門を強化しなければなりません。部門の課題については各部門が主体的に取り組めるような運営へシフトしていくべきだと考えています。そして、連合全体として勤労者全体をカバーする政策課題への取り組みをより強化していくことが望ましい方向であると思えます。金属労協はそうした方向に連合運営が転換されることをこれまでも要請してきましたし、そのためにみずからの運営や運動のあり方も自己改革し、

連合金属部門として積極的な役割を果たしていきたいと考えています。

3点目は2007年春季生活闘争に向けた課題について、連合が形成している中小共闘、そして、今年、本格的にトライしたパート共闘、そういう枠組みの中で金属労協が金属部門としてしっかりと役割を果たすことがまず第一だろうと思えます。

総合プロジェクト会議答申の中でも述べていますが、「大きく職種別賃金」を基軸とする新しい共闘軸の創設にも一層チャレンジしていかなければなりません。今年の春季生活闘争の成果を踏まえて、金属部門としては来年春も賃金改善に取り組むことを基本に検討を始めてまいります。金属部門として連合の春闘の取り組みを支えていきたいと考えています。

4点目は、IMFの推進する多国籍企業の行動規範締結(国際枠組み協約)の取り組みについてであります。IMF-JCは、過去2回この取り組みにチャレンジしましたが、残念ながら経営側の理解を得ることができませんでした。JCとしては、この協約の締結に向けた取り組みにもう一度チャレンジしなければならないと考えています。9月末のIMF国際枠組み協約世界会議の成果を踏まえながら、秋以降に準備を進めて、できるだけ早く交渉に入りたいと思えます。過去の反省を生かして、今回は何とかして前進を図りたいと思っておりますので、皆様のご理解と、ご努力をお願いします。



来賓挨拶
高木 剛 連合会長

連合発展の支えとして金属労協に期待

1点目は、2007年春季生活闘争について、時間外労働問題の改善のための1つの手段として、時間外割増率をもう少し高める要求をして交渉すべきではないかという議論が行われています。その他、中小の格差解消をはじめ、来年春に向けて、組合員の生活と権利の改善のために労働運動全体で何ができるのか、真剣に考えていきたいと思えます。日本の労働条件決定に当たって、JCの皆さんの主体的なリードはまさに不可欠です。

2点目は、組織拡大について、全体的な組合組織率が下がっているだけでなく、職場に非典型雇用が非常に増えている中で、企業内組織率が下がり、同じ職場の過半数が労働組合に参加できていない職場が増えています。労働関連法は過半数代表に労使自治という意味も含めて、労働条件設定などの権限を与えていますが、その権限をきちんと行使できない労働組合が増えています。JCの皆さんにも組織拡大で努力いただいておりますが、日本の労働組合が「恐竜の道」をたどることのないようにこの問題をとらえていただきたい。

3点目は選挙のお願いです。10月22日の2つの小選挙区での補欠選挙、来年4月の統一地方選挙、そして7月の参議院選挙と3つの選挙が続きます。参院選で与野党逆転ができれば、その後の政権交代も展望できると言われています。何としましても、この3つの選挙を頑張り抜きたいと決意しています。JCの皆さんの支えがあってこそその連合です。力を合わせて頑張りましょう。



来賓挨拶
マルチェロ・マレンタッキ IMF書記長

アジアでのJCの役割は大きい

IMF-JCに結集されている日本の金属労働者の皆さん達も、日本においては強い労働組合と良い労使関係という大変誇らしい長い歴史を持っておられます。ぜひ皆さんにお願いしたいことは、皆様方の力と外国の労働者の力を連帯させて、日本の多国籍企業が日本におけるのと同様な労働基本権と労働者に対する尊重を、海外の現地進出先においても提供するように働きかけをしていただきたいということです。

我々がお互いに連帯を強くすればするほど、そのときに国際枠組み協約のような道具を使って連帯を強化すればするほど、私たちはいろいろな脅威に対して労働者自身の身を守ることができます。

その脅威の1つは、非正規労働者の雇用が増加することによって私たち金属労働者の生活の質に対する脅威が出てきていることです。そういう脅威に対しても、我々は国際枠組み協約や国際連帯を使って対応する必要があります。

アジアにおいてIMF-JCの果たすべき役割は非常に大きいと思えます。私たちIMFはどんな形式でも協力をいつでも行う用意がありますし、いろいろな形態の協力について話し合う用意があります。

そして、アジアや世界において金属労働者のための政策の決定や、連帯行動を行うために使うことができる機構をIMFは持っています。そういう機構においても、IMF-JCは果たすべき大きな役割を持っていると思えます。

産別意見・要望(要旨抜粋)

特別報告「総合プロジェクト会議答申」、2007、08年度運動方針の審議では、各産別からの原案賛成の立場で意見要望が出され、これに対して、團野事務局長が本部答弁を行った。

自動車総連

答申に示された政策取り組みにおける実現力の強化に期待



大喜多代議員

総合プロジェクト会議答申に、金属労協としての政策・制度、産業政策活動のあり方について、実現に向けた具体的な行動展開が示された。答申には、金属労協としての政府・政党・経営など各

方面への要請活動の強化と、連合との連携強化、金属労協のスタンスの対外的発信の強化など、多岐にわたる項目が盛り込まれている。これまでの金属労協の政策に関する取り組みは、正直申し

上げ、作り上げた政策を組合員・世間に知らしめ、そしてそれを実現する活動に弱い面があったと思う。今回示された具体的な行動展開は、正にその面を強化するものであり、大いに歓迎したい。

全電線

これまでの運動の良さを活かした新たな運動の構築を

総合プロジェクト会議答申について、「改革の実践による金属労協の機能強化と運動の質的転換」を命題に求心力ある金属労働運動の確立と運動基盤の構築に向けた論議を進めてこれ、

今後それぞれの活動分野ごとに一層取り組みを推進されることである。金属労協においても、これまでの活動の良さを活かした新たな運動基盤の構築を行っていただくことを期待する。

また、金属労協の立場として各産別同士の情報交換などをはじめ、より一層産別活動が充実できるよう、産別の取り組みに対する支援活動をよろしく願いたい。



門馬代議員

電機連合

政策・制度課題の取り組みで実現力向上への工夫を



前田代議員

J Cの政策・制度課題の実現に向けた活動として、政府・政党への要請が中心となっているが、加盟組合の役員や組合員にも、コンパクトで分かりやすく、その内容を伝え、理解者を増やす取り組みに努

力願いたい。多くの方が関心を寄せそうな項目、例えば、「次代のもづくりを担う現場力の強化」や「地球温暖化対策の推進」などテーマを1つか2つに絞って、重点的に、分かりやすく伝えていくのも

一つの方策だと考える。その伝達方法についても、組合員にまで展開する工夫をして、J Cと産別・単組までの連携・運動したあり方についての検討も要望したい。

J A M

J Cはものづくり産業政策の推進に注力を

方針にもあるように、連合運動が定着した現状において、やはり連合運動との重複はできるだけ避けるべきではないかと考える。例えば、政策・制度の取り組みなどは連合に移すということをもっと

徹底してやるべきではないかと考える。一方、J Cとして、ものづくりやサプライヤーの立場での産業政策は積極的に推進することが必要であると思う。また、急速に発展するアジ

ア諸国の労働条件の引き上げなどを含めて、国際労働運動について、特にアジア地域におけるJ Cの果たすべき役割は、極めて大きく、その強化を強く求めたい。



斉藤代議員

基幹労連

労働時間や労働協約の課題もJ C共闘の柱の一つに



伊藤代議員

働き方や取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、われわれの生活は賃金以外の労働条件や協約による影響がますます大きくなっている。昨今の効率化やコスト削減のみを追求した現状

は、これまで以上に労働強化を推し進め、長時間労働を助長しているといっても過言ではない。賃金よりもむしろこうした課題解決の方が、場合によっては、J Cの求心力に成

り得るのではないかと。総合プロジェクト会議答申にも若干触れられているが、労働時間や労働協約上の課題をJ C共闘の重要な位置づけに据えることも検討すべき課題の一つであると考えている。

今後も改革を実践しつつ機能強化と運動の質的転換を図る

今、各産別から、さまざまな観点から意見・要望を頂いたが、環境条件の変化の中で、各産別が運動として目指すべき方向が、それぞれさまざまな考え方があり、それだけばらつきがはじまっていると認識したところです。

しかし、一方で、金属全体としての運動をきちっと維持し、今後とも連合運動の中



團野事務局長

でその役割を発揮していく必要があると改めて認識しました。

そういう観点に立って、総合プロジェクト会議答申でも触れたように、今後とも改革を実践しながら、機能強化と運動の質的転換を図り、各産別のニーズにきちっとこたえられるように努力を継続してまいりたいので、ご理解とご協力をいただきたい。

本部答弁

金属労協2007～08年度役員

2年間に亘り、全力で取り組みます
皆さんのご支援・ご協力をお願いいたします

議長	 加藤 裕治 (自動車総連会長)	副議長	 中村 正武 (電機連合中央執行委員長) 労働政策委員会委員長	 小出 幸男 (JAM会長) 組織委員会委員長	 内藤 純朗* (基幹労連中央執行委員長) 国際委員会委員長	 前田 雅昭* (全電線中央執行委員長) 政策委員会委員長
----	---	-----	---	--	--	---

事務局長	 團野 久茂 (基幹労連)	事務局長次長	 植松 良太 (自動車総連) 国際局長	 若松 英幸 (電機連合) 組織総務局長	 中野 治理 (JAM) 労働政策局長	 米内 顕二* (基幹労連) 政策局長
------	--	--------	---	---	---	---

常任幹事	 萩原 克彦 (自動車総連事務局長)	 久保 秀一郎* (自動車総連事務局長次長)	 泉田 和洋* (電機連合書記長)	 石村 龍治 (電機連合書記長次長)	 河野 和治 (JAM副会長)	 大野 弘二 (JAM副書記長)
------	---	---	--	--	--	---

 神津里季生* (基幹労連事務局長)	 沖中 博* (基幹労連事務局長次長)	 古川 栄* (全電線書記長)	 海老ヶ瀬 豊* (全電線副書記長)	会計監査	 小山 正樹 (JAM副書記長)	 高橋 英人* (全電線中央執行委員)
--	---	---	--	------	--	---

*印は新任

2007～08年度顧問

得本 輝人	自動車総連
草野 忠義	自動車総連
豎山 利文	電機連合
藁科 満治	電機連合
岩山 保雄	電機連合
鈴木 勝利	電機連合
古賀 伸明	電機連合
梅原 志朗	電機連合
阿島 征夫	電機連合
藤原 巖	JAM
前川 忠夫	JAM
服部 光朗	JAM
宮田 義二	基幹労連
有村 利範	基幹労連
姫野 庄三	基幹労連
吉井 眞之	基幹労連
瀬戸 一郎	本部
小島 正剛	本部

2007～08年度政治顧問

古本 伸一郎	自動車総連	衆議院議員
直嶋 正行	自動車総連	参議院議員
池口 修次	自動車総連	参議院議員
大島 章宏	電機連合	衆議院議員
平野 博文	電機連合	衆議院議員
若林 秀樹	電機連合	参議院議員
加藤 敏幸	電機連合	参議院議員
筒井 信隆	JAM	衆議院議員
今泉 昭	JAM	参議院議員
津田 弥太郎	JAM	参議院議員
高木 義明	基幹労連	衆議院議員
柳田 稔	基幹労連	参議院議員
辻 泰弘	自動車総連、電機連合、 JAM、基幹労連	参議院議員

退任役員



退任役員8名に
対する感謝状の
贈呈が行われた。

宮園哲郎副議長 (基幹労連)
福田良雄副議長 (全電線)
高比良芳紀事務局次長 (基幹労連)
大福真由美常任幹事 (電機連合)
近藤治郎常任幹事 (自動車総連)
石塚拓郎常任幹事 (基幹労連)
矢吹智将常任幹事 (全電線)
吉田潤一会計監査 (全電線)

長年に亘り、お疲れ様でした

労働リーダーシップコース 受講生募集

第40回労働リーダーシップ東日本コース

日程：2006年11月13日(月)～25日(土)
第1週：13日(月)～17日(金) *通学可 第2週：21日(火)～25日(土) *合宿制
会場：1週目＝明治学院大学、2週目＝軽井沢プリンスホテル

第38回労働リーダーシップ西日本コース

日程：2007年1月11日(木)～27日(土)
* (土)午後～(日)はフリー、全期間合宿制
会場：京都・関西セミナーハウス

お知らせ

Tokyo

ユニオンリーダーに必要な多彩なカリキュラムと産別の枠を越えたコミュニケーション!!

Kyoto